

2018年度活動方針の決定について

「1」基本方針

・少子高齢化による人口減少と経済縮小がすすむ地域社会において、人の暮らしに欠くことができない食、福祉、エネルギーはこの先どのように自治していくかは大きな課題です。

・生活クラブ長野の歴史において、組合員は目的に向い団結し、おおいの能動的な活動により各地域で支部結成を果してきました。このエネルギーこそがこれからの社会を乗り切る手段と考えます。

1. 長野単協第三次中期計画(2016〜2018)の推進

2018年度は長野単協第三次中期計画の最終年度です。政策が一步步前進していかれるよう、組合員の参加とつながりを強め、「食、ケア、エネルギー」の自治を着実に積極的にすすめていきます。

①支部のまちづくり構想の推進  
 ・生活クラブ長野の歴史において普遍的価値となったのは「自分たちに必要なものは自分たちでつくる」という組合員主権によって各地域で支部結成を果し、せっけん6品目からはじまった共同購入運動は35支部、年間利用高36億円まで育ったこと

・自立した支部の次のチャレンジとしてまちづくり構想をすすめています。2018年度は第一次支部中期計画の最終年度です。組合員の合意と実践をさらに積みあげ実現をめざします。

②クラブステーション構想を活かした組織活動の推進

・2012年度からクラブステーション構想がはじまり、2018年度には11支部で物件取得となります。物件費の年間拠出金額は1,000万円を超える勢いですが、それに見合う共同購入事業の伸張が伴っていません。このままの状況が続けば共同購入運動と事業の継続に影響を及ぼすとともに、支部のまちづくり構想の展開やクラブステーション構想の継続が難しくなります。

・2018年度は共同購入事業の伸張を重視します。クラブステーションを取得している支部は「くらすて班」の拡大を積極的にすすめる、クラブステーションを「毎日」人が集う駅としてきちんと機能させ、おおいの参加とつながりをつくり、支部のまちづくり構想で描いた多様な運動を具体的に展開していきます。

③長野単協のエネルギー事業と福祉事業の推進  
 ・熱エネルギー自給構想は事業計画化し実行に向けた活動をすす

めます。

・福祉事業のモデルづくりは岡谷支部の意思に基づき組織化と事業化をすすめます。

④長野単協第三次中期計画の総括と第四次中期計画の策定に取り組みます。

・2025年問題は地域社会や生活クラブ長野にとって大きな課題です。場当たり的な対応では乗り切ることができません。自分たちの運動の価値について揺るぎないものを持つことが必要です。2025年に向けて長期ビジョン(指針)を策定します。期間は2019〜2024年度の6ヶ年計画とします。

・長期ビジョンを具体化する政策や事業計画は中期計画に区分し、前半(第四次中期計画2019〜2021年度)、後半(第五次中期計画2022〜2024年度)に分け策定します。

2. 若年層の拡大と加入後のフォロー

・積極的に新規加入者に対する活動の場をつくり、人との関係性の中で若年層組合員が①運営に参加することの楽しさを知り、②消費材の魅力に気づくことで自分の利用を高め、③さらには発見した魅力を若年層組合員が持っているネットワークへと広げていく拡大をめざします。  
 ・ビギナーズパーティーの目的に

沿った企画内容で新規加入者の7割が参加できることを計画におきます。そのために2018年度は支部の年間計画として活動をしっかりと組み立て実践します。

「2」共同購入事業

1. 共同購入事業計画

総利用高計画3,848,291千円(伸張率 109.3%)  
 世帯当たり計画 20,686円(伸張率 105.0%)  
 累計組合員数計画186,030人(伸張率 104.0%)

2. 共同購入政策

・消費材の利用結果を通して自分たちの暮らしや地域社会をより良くしていくことが、共同購入運動です。暮らしにおける食の問題(添加物、遺伝子組み換え作物、環境汚染、国内自給力の低下など)を解決するために、「買う力と買わない力」を結集し、自分たちが必要とする消費材を作り上げ、また、食の安全性だけに留まらず、地域社会を変えていく減農薬の取り組みや、せっけん利用による水質浄化運動、使い捨て社会における行政区のごみ問題に対しグリーンシステムという対策を実践的な運動として展開してきました。

- ・長野単協第三次中期計画の最終年度にあたる2018年度は、クラブステーションの拡大、長野単協らしい個性の展開、福祉事業の具体化など、夢に描いたビジョンを形にしていく年となります。ビジョンの実現に向けては、利用結集活動と組織拡大活動は共通課題であり、2018年度においても年々低下している共同購入参加率と世帯当たり利用金額の底上げに取り組ま

- ・消費材の利用結集はすべての活動の中心軸です。食の根幹であるビジョンフードの持つ運動性を再確認するとともに、おおぜいの共感をもって利用結集活動の推進に取り組みます。2018年度は単協統一のテーマ材である豚肉を中心に、単協全体で連帯した活動をすすめます。

### 3. 活動計画

(1) 世帯当たり利用金額の底上げをはかります

これからの共同購入事業の維持および発展に向けては、世帯当たり利用金額の底上げが最重要課題です。世帯当たり利用金額は、休会者を含む全組合員の平均利用金額です。一定額以上の利用者も多

実利用金額の引き上げであり、未利用者および低額利用者への対応を強化します。

#### ① 未利用者対策

- ・年々、長期未利用者の割合が高まっています。長期的な未利用者は班とのつながりが希薄になっており、班会議など組合員が集まる機会で意識的にコミュニケーションをとり、共同購入参加のきっかけをつくる必要があります。

- ・同時に未利用者にならない未然の対策が必要です。ライフスタイルや年齢層も様々な人が集う生活クラブ組織において、すべての組合員が安心して共同購入に参加できる仕組みづくりを班や支部などからすすめていきます。(クラブステーション構想、くらすテ個配)

#### ② 新規加入者への対応

- ・加入間もない段階で不定期利用から未利用となる傾向が高いことから、新規加入者への初期対応を強化します。新規加入者の早期利用定着をはかるには加入直後のタイムリーな対応が重要であり、加入時の対応者や同じ班員同士など身近な組合員によるフォロー活動を基本とします。
- ・2018年度もビギナーズパーティーの取り組みを継続します。2017年4月以降の加入者を対象とし、参加率7

0%をめざし各支部で年間の開催計画をたてて実施していきます。

- ・また、連合企画の取り組みである『新規加入者限定品目キヤンペーン』と連携した取り組みとして、職員による対面活動でキャンペーンチラシの配布をおこないます。この活動から、支部で企画するビギナーズパーティーへの参加につなげていきます。

#### ③ 牛乳、鶏卵の予約のみ利用者への対応

牛乳、鶏卵の予約のみ利用者の大半はスポット的に通常利用のある組合員です。消費委員会活動を主に、日常的な食生活(食卓)に欠かせない消費材(ビジョンフードや調味料)を切り口に生活クラブのある暮らしを提唱し定期的な利用を促します。また、様々な企画や組織運営への参加を積極的にすすめる、対象者を活動に巻き込むことで生活クラブ運動や消費材への理解を深め、利用品目の幅を広げていきます。

#### ④ 買う力と買わない力を結集する

- ・家計消費における食費全体の半分を生活クラブで利用することを指標とする中、生活クラブ長野における世帯当たり利用金額は、食費全体の3割

程度に留まっています。

- ・価値観、ニーズが多様化する昨今ですが、“素性が確かなものを食す”ことは普遍的な人間の豊かさです。生活クラブの様々な活動を通じ、個人にとっての価値ある消費材をより多く見出すことで暮らしにおける生活クラブの占有率を高めていきます。

(2) ビジョンフードの利用結集を通じて消費材の社会的価値を高めていきます

- ・今ある消費材は、消費者である組合員の“食べる責任”と生産者の“作る責任”によって成り立っています。生産者はより厳しい基準や課題をクリアするために日々レベルアップに取り組んでいます。生活クラブではここ数年は計画した量を食べきれない状況が続いています。今一度、生産者と手を取り合い、食べる責任と作る責任のバランスを保っていくことが必要です。

- ・消費材を利用し続けることは、国内自給力の向上や主産地形成を実現することにもつながっています。特にビジョンフードは、日本の第一次産業を支える大事な消費材です。おおぜいの共感をもってビジョンフードの利用結集をすすめていきます。

①活動の連携による結集力の強化

- ・2018年度は単協統一で豚肉をテーマとした活動を展開します。支部委員会、専門委員会、班が連携して、拡大と利用を両輪ですすめていきます。
- ・豚肉を題材に、組合員自身の気づき、発見を引き出すことで個人の活動動機を高め、拡大行動や利用結集活動へのアクションにつなげます。
- ・ビジョンフードの持つ運動性は全品目（米、牛乳、鶏卵、食肉3種、青果物）に共通しており、豚肉をテーマとした活動展開からの気づき、発見をビジョンフード全体の利用結集活動につなげていきます。

②特定課題への取り組み

- ・米の利用率の低さは継続課題です。利用量よりも利用者拡大を優先し新規利用者の獲得をすすめます。
- ・牛乳の利用低下に歯止めがかけられない状況です。特に予約解約の増加が顕著であり、継続した利用と新規利用拡大が急務です。
- ・鶏卵利用対策の一環としてパック化導入の検討をおこないません。取り組み方（供給形態）の見直しについては、材の質を落とさず利用結集に寄与できることを前提とします。

(3)消費材の価値を学び知る活動をすすめます

利用結集活動の手法の一つとして行ってきた料理講習会、試食会、消費地交流会、生産者交流会などの企画において、参加者が対応すべき対象であったのか点検するとともに、企画の実施目的と参加対象者の合致を追求していきます。

①生産者交流会、見学会

生産者と直接会って話を聞くこと、生産現場を直接見ることは、私たちの共同購入が単なる購買行為でなく、生産、消費、廃棄まで一貫した消費行動を再確認できる最良の機会です。2018年度についても、支部の年間計画に基づき生産者交流会、見学会を開催していきます。

②ビギナーズパーティー

新規加入者の消費材への理解を深め、利用定着をはかること、また若年層の持つネットワークを拡大活動に活かすことを目的に全支部で年間計画に基づく開催をすすめます。ビギナーズパーティーは、参加者（伝えたい層）視点に立った企画を検討し、おおよしの参加（2017年4月以降加入者の参加率70%）をめざします。

3期に分け、期ごとに単協統

一の消費材を来場者にプレゼントします。

③ビオサポ講座

『「安全・健康・環境」生活クラブ10原則』の「健康」を捉えた活動がビオサポによる「健康な食べ方提案」です。「健康な食べ方提案」によって「素性がわかる生活クラブの消費材を使い、健康づくりに必要な栄養をまかなう献立をつくり、自分で調理して食べる」組合員を増やし、消費材の利用定着および利用品目拡大をはかっていきます。

・ビオサポ活動を広める機会としてビオサポ講座①ビオサポ講座食べ物編②安心安全な食べ物編③（旧；旧；ビギナール編）、④ビオサポ講座食べ方編⑤バランスの良い献立とは⑥（旧；ステップアップ編）と、新たに用意したビジョンフード編3本（①豚肉&米、②鶏肉&鶏卵、③牛肉&牛乳）を積極的に使い、各支部年間3回以上のビオサポ講座開催をすすめます。

④上伊那との交流活動

交流および援農を年間6企画実施します。交流活動や援農を通じて、お互いの顔が見える関係作りをすすめることも、作業体験や援農を通じて生産者と生活クラブの提携関係をj知る機会としていきます。

・田んぼ交流会は食育の機会にもなる企画となることから、家族参加を積極的によびかけていきます。

⑤おおぜいの自主監査

引き続き全ブロックで年1回の実施をすすめます。近年では県内の連合生産者への監査が続いており、同生産者に対し品目を変えた監査が続いていますので、過去5年間に自主監査未実施生産者を優先的に選定していきます。

・また、おおぜいの自主監査は生産者に対してだけでなく、自分たちの利用状況まで含めた監査活動とし、監査後の利用結集活動までを組み立てます。

3.消費材の放射能検査活動

・原発事故による放射能汚染問題は未だに大きな社会問題となっており、生活クラブでは、生産者の協力や組合員からのカンパで引き続き消費材の検査を続け、情報開示をおこなっていきます。

・放射能検査活動の広報は、誰でも分かる食にかかわる内容や提携生産者の除染対策など、放射能に関連するさまざまなトピックスについて、WEBサイトでのコラム形式での掲載や、月次での「放射能検査ニュース」で掲載していきます。ま

た、単協独自品については週刊生活クラブ長野版の紙面等を使い、情報開示をおこなっていきます。

#### 4. 展示会

- (1) 事業計画
  - ・展示会の在り方検討プロジェクト答申（3ヶ年計画）；2017（2019年度）にて2019年度の総利用計画を76,632千円に設定しました。しかし2016年度、2017年度と連続して展示会の総利用高が伸張したため3ヶ年計画2年目の2018年度展示会事業計画は78,690千円、事業剰余計画8,427千円に上方修正します。
  - ・事業計画の達成に向けては、下記方針に沿ってすすめていきます。

- (2) 基本方針
  - ① 展示会事業は「もう一つの共同購入」と位置づけ、生産と流通と価格の仕組みを明らかにしながら、展示会における購入手段の最大の特徴である「みて」「ふれて」「たしかめて」を基本に、組合員の生活を豊かにすると同時に、地域の人々の協同組合運動への理解を深めることを目的とすすめていきます。展示会は生活クラブ運動を主張する

一形態としてとらえ、組合員主体で展示会を運営し、また事業面においても組合員が自主管理します。

- ② 活動と事業は支部で責任を持ち、経営はブロック単位（センター）で自立することとし、展示会事業においてもブロック単位で予算計画を立て、構成する支部が連帯し活動（事業）をすすめていきます。ブロックでは各支部から展示会実行委員を選出し、ブロック展示会実行委員会を組織し、支部間の連帯した活動をもってブロックの展示会を成功させます。

- ③ 展示会はイージーオーダースーツを主軸とし、年2回、1会場100着を継続します。1会場100着は、イージーオーダースーツの取り組みを継続していくのに必要な数というものを理解するとともに運動目的についてもきちんと伝えていきます。

#### 1. 「3」拡大活動

##### 1. 拡大活動計画

期首組合員数	14,901人
加入数	1,817人
（前年実績	1,158人
前年比	147.1%
脱退数	694人
（前年実績	959人
前年比	83.7%

純増 1,123人  
 （前年実績 199人）  
 期末組合員数 16,024人  
 （伸張率 106.2%）

#### 2. 活動計画

- (1) 拡大活動の基本視点
  - ・協同組合の基本的価値は、組合員の生活（地域を含む）を豊かにするしくみ、道具をつくり、それがおおぜいの支持を得て力をまとめていく事です。

・これまでは消費材を手に入れたという思いと、支部結成を果たすという責任意識が支部の拡大活動を推しすすめる中心でした。しかし、支部結成から時間が経過し、多くの支部で支部結成時よりも組合員数を減らしている状況にあります。

・暮らしの課題が食だけにとどまらず多様化する中で、2011年にクラブステーション構想を提案し、支部単位での「まちづくり」の議論を開始しました。これにより、もう一度「協同組合の基本的価値」に立ち返り、自分の暮らしや地域に必要なものをつくり出す運動をすすめています。冒頭に述べた通り、おおぜいが「必要」と思えるしくみをきちんと提示し、活動参加を広げていくことがとても重要で

す。それが「なぜ拡大が必要なのか」への合意形成です。

#### (2) 拡大活動

##### ① 支部からの拡大提案

何をめざしているのかを明確に提示します。目的が明確に示され、本気で協力が必要だと訴えかければおおぜいの組合員が応えてくれるはずです。

##### ② 春、秋の班討議

・春は支部ビジョンについて意見交換をするとともに、拡大力を高めるために単協統一の拡大テーマを用意します。テーマは豚肉とし、一方的な学習ではなく、班員同士が相互に「考え」「気づく」ことに留意するものとします。

・秋は2019年度から始まる次期支部中期計画についての議論を中心とし、拡大活動提案は支部ごとに立案します。春と同様に、「気づき、発見の連鎖」「参加とつながり」への工夫をはかります。

#### (3) クラブステーション構想への取り組み

・これまで複数の支部でクラブステーションを取得しましたが、残念ながら総体的に組合員数は増えていません。一方で物件費用は単協の大きな負担となつていきます。

・クラブステーション取得支部の増加が、事業的、運動的貢献

よりも経営圧迫につながるこ  
とがないように、本来の構想  
に立ち返り、拠点にかかる費  
用を賄えるだけの事業体力を  
ともなつて物件を取得するこ  
とを認識を深めます。

・2018年度もクラブステ  
ーションの取得を予定している  
支部が複数あります。現在の  
取得支部も含め、自分たちの  
決めた計画に責任を持った取  
り組みをすすめます。

(4) くらステ個配

・くらステ個配は「参加とつな  
がり」を重視する生活クラブ  
長野においても、個配ニーズ  
に積極的に対応しつつ、ケア  
やクラブステーションのコミ  
ュニティでつながり、組合員  
を「個」にしないしくみです。  
組合員の高齢化に対応するた  
めだけでなく、参加の裾野を  
広げつつ事業的な安定をはか  
るためにも、積極的に若年層  
を取り込んでいきます。

・くらステ個配に取り組む支部  
では、個配を広げていく拡大  
計画やエリア、スケジュール  
(事業計画)を立て、安定的  
に責任を持って導入する事に  
留意します。

「4」たすけあい・福祉政策

1. 共済制度の推進

①生活クラブ共済へハグくみ

生活クラブ独自の共済制度と  
して発展させていく事を展望  
し、積極的に推進します。目  
標件数を410件とします。

②CO・OP共済へたすけあい  
全国の生協と連携して取り組  
むことで、数のメリットを生  
かした充実した保障がありま  
す。ライフステージ別に対応  
できる様々な保障を、組合員  
の生活を豊かにする道具とし  
て推進します。目標件数を4  
70件とします。

③CO・OP共済へあいふらす  
生命保障であるあいふらすに  
ついても、保険商品に対する  
たすけあいの共済制度として  
推進します。36件を目標と  
します。

2. エッコロ制度

①エコロ制度の周知  
エコロ制度は人的たすけ  
あいを基本とした、生活クラ  
ブ独自の特色ある制度です。  
この制度を媒介することで、  
人と人のたすけあいを促進し、  
困った時に気軽にたすけあえ  
る関係づくりをめざします。  
そのためにも、まず制度の内  
容を組合員に理解してもらう  
ことが必要です。

②エコロケアグループづく  
りの推進  
エコロケアグループは、も  
し困りごとが起きて人の手を

借りたいたときに、身近にたす  
けてもらえる人がいなかった  
時にも手を差し伸べられるし  
くみの一つです。エコロに  
よるたすけあいをより実態化  
していくために、積極的に推  
進していきます。

3. 福祉政策

①支部のなりたいた姿に基づく  
福祉の取り組みの検討  
自分たちの住む地域を暮らし  
やすく変えていくために、課  
題に目を向けてたすけあいの  
しくみづくりに取り組むこと  
を推進していきます。

②単協モデル事業の実現  
単協の福祉モデル事業として、  
岡谷支部で取り組むことが決  
定されました。この取り組み  
をサポートし、2020年4  
月の事業開始をめざします。

③ケアサポートネットワーク長  
野との連携  
福祉に取り組む団体(生活ク  
ラブ運動グループ)と生活ク  
ラブが共同で設置した「ケア  
サポートネットワーク長野」  
と連携し、支部の学習会や福  
祉事業の立ち上げサポートを  
すすめます。

・ケアサポートネットワーク長  
野で秋に企画する学習・交流  
機会に、組合員の積極的な参  
加を呼びかけます。

4. 災害訓練

これまで班で築いてきたお互  
いさまの関係ですが、共同購  
入システムの変更などにより  
その機能が低下しています。  
近年の自然災害の発生状況を  
みても、いつ、どんな災害が  
起こるか分かりません。何か  
あった時には、組合員同士が  
たすけあえるよう、関係性を  
高めておくことが大切です。  
災害訓練を実施し、班内、地  
区の班同士がつながりを深め、  
たすけあう関係性をつくりま  
す。初めての災害訓練になる  
ので、各ブロックで支部を限  
定して実施します。

「5」環境・エネルギー政策

1. 環境活動

①木づかい運動  
2017年度に塩尻市で開催  
したシャボン玉フオーラム  
の学びを活かし、私たちの身  
近な里山の現状に目を向け、  
持続可能な里山づくりに向  
けた具体的な取り組みを推  
進します。

②NON-GMO運動  
自生ナタネ調査活動やGMO  
フリーゾーン運動を通して、  
遺伝子組み換え問題に対す  
る関心を高めます。

③グリーンシステム  
・Rびん、ピッキング袋、牛乳  
キャップの回収率を高める

ための活動に取り組みます。  
カタログ類の増加に伴い、資源の有効活用という社会的責任を果たすことが求められています。生活クラブの共同購入も毎週の取り組みになり、組合員に配布するカタログ類が増えました。生活クラブの社会的責任としてリサイクル回収に取り組みます。2018年9月からカタログ類回収の実験取り組みをスタートします。実験対象センターは長野センターとします。実験回収の中で課題を洗い出し、必要な見直しを行ない、2019年4月から単協全体回収へと継続して取り組みます。

④石けん運動

石けんを推進する運動は、引き続き支部ごとにすすめていきます。

・シャボン玉フォーラムでの経験を活かし、石けんを通して水環境、森林環境などにも着目した活動をすすめます。

①電気の共同購入

・エネルギー政策の転換をはかるために私たち市民ができることは、再生可能エネルギーを推進する事業所を支持することです。脱原発社会の実現をめざし、電気の共同購入事業の推進をはかります。20

18年度は200件の契約を目標とします。

・5月に各ブロックで学習会を開催するとともに達成に向けた機運を高め、グループ全体で取り組む6月から8月のキャンペーンで賛同者（契約者）を増やす活動に取り組みます。

②熱エネルギー自給構想プロジェクト

・2018年度上半期に事業計画を提案します。

・2018年度秋にペレットストーブの共同購入から開始します。

・生活クラブで一ヶ所里山活動の場を確保します。行政と連携して場所を選定し、運営主体は組合員から募ります。

・熱エネルギー自給構想プロジェクトは2018年度末で改編し、2019年度は実行プロジェクトに移行して組合員参加を広げます。

〔6〕組織運営

1. 班運営

・活動、運営の基本単位である「班」の主体性を追求し、生き活きとした班づくりをすすめます。

・班は班の意見、意志をもって支部大会に参加し、決めた計画に責任を持ちます。支部大会で決めたことは班、組合員全員の課題であり、決して特

定の委員だけの課題ではありません。

・そして、決めた計画を具体的に検討する場が班会議です。年3回（春、秋は活動の具体化のため、支部大会前には支部計画に意見を反映させるため）の班会議を開催します。班には供給高に対して0.5%を班活動費として割り戻します。

2. 班長会運営

・支部大会決定に基づき、班の自立した活動をすすめるために班長が集まり、支部の課題や班の抱える問題を共有し、さまざまな活動の情報交換をおこないます。

・地区別班長会は身近な地域の問題とそれぞれの班の持つ問題を出し合い解決する場です。

3. 支部運営

・私たちは支部を一つの事業単位と位置づけて、共同購入運動に取り組んでいます。生産者に対する責任や、望む地域社会づくりのために、拡大、利用計画を設定し、支部を構成する組合員一人ひとりの力で活動を前にすすめます。支部委員会は、支部大会で決定された計画に責任をもちます。拡大計画、利用計画が

達成できるよう、具体的な活動を班と組合員に提示し、ともに実践していきます。また、支部の専門委員会と連携し、生活クラブの多様な運動を広げていきます。

4. 大型班、くらすて班について

①大型班は、支部との協議会を持ち支部課題を共有するとともに、班員の参加意識を高め、通常班と同じように活動をすすめます。

大型班の課題を踏まえ、より公的な存在としてくらすて班化をすすめていくことを基本認識とします。また、クラブステーション構想につながる取り組みに向けて、各支部で議論をすすめます。

②クラブステーションに置く共同班を「くらすて班」と呼びます。くらすて班は共同購入をはじめとする、コミュニケーションを活用したクラブステーションの多様な運動を創出する基盤です。

参加とつながりを広げるために、くらすて個配も含めて自由度の高い参加のあり方を追い求めてこそ、くらすて班の存在価値が大きくなります。また、くらすて班はクラブステーションの多様な機能を最大限に活用し、緩やかな共育を果たす機能とし

て非常に大きな期待を持っています。

## 5. 専門委員会の活動

2018年度は専門委員会ごとと単協、ブロック、支部それぞれ役割を意識し、円滑な運営、充実した活動をめざします。

### (1) 単協消費委員会

① 共同購入事業の安定運営および更なる発展に向けた政策を立案します。また必要に応じて供給対策についても検討します。

② 生活クラブグループ全体が連帯して取り組む運動(遺伝子組換え食品の排除、畜肉における飼育方法や飼料、品種等の到達点等)に対し、単協における活動方針を組み立てます。

③ 単協の利用計画は支部計画の積み上げです。各支部の利用計画達成を以って単協の利用計画達成をめざすにあたり、支部での利用結集活動を活性化する提案や後方支援となる道具の用意、費用対効果の検証材料などの提示をおこないます。

### (2) 単協たすけあい福祉委員

① 支部によるたすけあい、福祉の活動が推進されるよう、後方支援を行っていきます。

② たすけあい、福祉のしくみ

を支える事業として、共済加入者を増やす活動に取り組みます。

### (3) 単協サステイナ委員会

① 支部ごとの「サステイナサロン」の推進などを通して、環境に対する関心を高め、いくととともに、活動への参加者を広げていきます。

### (4) 単協広報委員会

① 今月の風の発行を通して、組合員に生活クラブ長野のすすめる運動への共感と、支部の活動状況を知らせていきます。

② 生活クラブ長野ホームページ、生活クラブ長野フェイスブックを活用した単協広報を強化します。

## 〔7〕その他諸課題

(1) ぐるっと長野地域協議会

① 提携生産者とともに、持続可能な食糧生産、消費の関係を強化する自給運動に取り組みます。

② ぐるっと長野の取り組みを組合員に広く知らせる事を目的に、秋にぐるっと長野主催のまつりを開催します。

③ 2019年度から始まる次期3ヶ年計画の議論をすすめます。

### (2) 平和運動

① 平和行動やリフレッシュツアーを通して、組合員一人ひとりが平和を考える機会を作っていきます。

② 脱原発に向けた取り組みをすすめます。

### (3) 復興支援活動

連合会や関連団体と連携しながら、継続的な復興支援活動に取り組みます。

### (4) ネットワーク運動

① 暮らしやすいまちづくりをすすめる、行政課題の解決方法としてネットワーク運動を広げていきます。

② 生活者ネットワークが存在する市町村では、定期的に支部との協議会を持ち、まちづくり運動における連携関係を強めていきます。

## 〔8〕経営活動

### 1. 経営活動方針

① 長野単協第三次中期計画及び、支部のまちづくり構想を実現していくために、供給高は各支部の事業計画達成を基本におきます。経営的な視点では前年度対比102.7%アップを最低限確保する数字とし設定します。

② 共同購入事業を将来的に持続するために若年層の拡大と

加入後の利用定着を最重要課題としていきます。

③ クラブステーション取得など、今後の運動発展に向けた先行投資をすすめています。この道具を最大限活用することで、支部の事業伸張とブロックの経営自立をはかつていくことが求められます。

④ ブロックでは引き続き年間予算に基づき、共同購入事業を根幹とする事業収入を確保するとともに、各センター及び本部での業務管理、運営に係る経費管理と執行を強化します。

### 2. 出資金計画

① 2018年度は第6次出資金政策に基づき出資金管理をおこないます。

将来に向けて自己資本となる出資金が安定的に確保していかれるように、組合員一人平均の出資額の平準化をはかるとともに、新規組合員の拡大を中、長期的な課題とします。

② 2018年度出資金積み立て計画は2,052,179千円とします。

### 2. 設備投資、設備・資産管理

① 岡谷、上田、塩尻、上諏訪、松本、辰野支部で取得したクラブステーションの運営原資は支部の共同購入事業の伸張により拠出できるように支部で課題にお

- ② 2018年度に新たに取得するクラブステーションとして富士見、茅野、長野中央支部で計画しています。初期費用及び運営原資を予算化し、支部の事業計画達成により執行します。
- ③ 長野センターのホール雨漏り修繕を計画します。

3. 関連会社、関係団体への出  
・増資および会費等

- ① 一般社団法人市民セクター政策機構に対し、賛助会費（組合員数×50円/年）と維持会費（1,040千円/年）を拠出します。
- ② 連合会費は今までと同様、組合員一人当たり300円とします。300円は6月の集金時に請求します。それ以降12月までの新規加入者は初回の集金月に請求します。
- ③ 2017年度予定を1年間順延した庄内・遊佐太陽光の「市民出資」を募る活動を推進します。
- ④ 未収金対応  
引き続き多重未収者対応を最優先課題としてすすめていきます。

〔9〕理事会運営

- ① 長野単協第三次中期計画に基づき、運動（次期課題の創出）と組織運営の再構築に取り組んで

- ② 春と秋の拡大強化月間に合わせ、拡大進捗状況と対応策についての議論を深め、各支部での拡大活動推進をサポートします。
- ③ 長野単協第三次中期計画の総括及び、第四次中期計画策定をすすめます。

〔10〕事務局活動

- ① 事務局運営  
・ 将来に向けて運動と組織運営をより活性化していくために、ブロック事務局労働の指針に基づき職員個々の組織、業務対応力の更なる向上や、組合員、職員間での連携を強化していきます。
- ・ 共同購入事業を将来的に持続するために若年層の拡大と加入後の利用定着を最重要課題として組合員活動で取り組みます。組合員活動につなぐ初動対応を職員活動としてすすめていきます。
- ・ 共済活動では、生活クラブ共済は年間新規加入目標を410件、CO・OP共済は年間新規加入目標を470件として組合員とともに取り組んでいきます。
- ・ 引き続き無駄なコストをかけることのない業務及びセンター管理、運営を遂行します。
- ・ 危機管理マニュアルに基づく点検、訓練を年間計画に基づき確実に実施します。また、長野単

協第三次中期計画のたすけあい、福祉政策に基づき、ポイント配送の実践訓練を2018年度に実施します。

- ② 安全運転管理と車両管理  
・ 個人と職場単位で法令の遵守と日常的な体調管理をおこない、安全運転を心がけ車両事故、違反をなくします。特に新規採用の職員に対し安全運転教育を強化していきます。
- ・ 各センターで車両の点検と衛生管理を徹底します。

- ③ CO2削減に向けた取り組み  
生活クラブグループですすめる「事業系CO2排出削減自主行動計画」に基づき、これまでの管理体制のもと環境に配慮した行動を実践しCO2の排出削減に向けた対策をすすめていきます。

2018年度予算

供給高	3,535,579千円
供給原価	2,658,755千円
供給剰余	876,824千円
その他事業剰余	22,184千円
事業総剰余	918,912千円
供給割戻金	17,678千円
事業経費計	907,350千円
事業剰余金	11,562千円
事業外収入	3,951千円
事業外費用	481千円
経常剰余金	15,032千円